

CGAP資金提供者調査2017： 金融包摂に資するクロスボーダー 資金のトレンド

CGAP資金提供者調査によると、2017年¹のクロスボーダー資金提供は420億米ドルに達しました。前年比2桁の伸びです。資金提供先は幅広い分野に及んでいます。資金提供者達は、金融サービスプロバイダー（FSP）の貧困層向け融資ポートフォリオに資金を供給するだけでなく、デジタル金融サービス（DFS）のへ優先度を上げ、DFSが成功するために必要な基盤構築に注目しています。デットが引き続き主要な資金提供手段ですが、エクイティ資金提供も増加しました。助成金は10年ぶりに減少しました。

資金提供の2桁成長は金融包摂への強力な支持の現れです。

2017年には、金融包摂に資するクロスボーダー資金提供が約420億ドルと過去最高を記録しました。前年比約12%の成長です。（図1参照）² 5年ぶりに公的資金の増加率（13%）が民間資金の増加率（9%）を上回りました。公的資金は263億ドルから298億ドルへ、民間資金は108億ドルから118億ドルに増加しました。^{3,4}

開発金融機関（DFI）が公的資金提供の推進役を果たしています。彼らのコミットメントは18%増加し、190億米ドルに達し、公的資金増加の半分以上を占めています。一方で二国間および多国間機関による拠出は6%減少しました。しかし、これは驚くべきことではありません。経済基盤への政府開発援助（ODA）は233.6億ドルから2016年には220.4億ドルへと6%減少しました。5そして2017年のODA全体の伸びは1%未満で停滞しています。（OECD 2018）なかでも経済基盤援助は2016年の220.4億米ドルから2017年には216.5億ドルに2%減少しています。OECDによると、理由は、主要援助国が海外より国内の優先事項、すなわち増大する難民流入に焦点を当てていることです。

民間資金提供の最前線では、マイクロファイナンス投資主体等（MIV）が成長を牽引しています（Symbiotics 2017）。2016年はMIV資産額の伸びが鈍化すると予測していたにもかかわらず、⁶10%増加し、2017年にはさらに18%増加しました。民間機関

投資家はMIVの主要な資金供給源です。財団も同様のペースで成長しましたが、資産規模は全体の10%未満で、民間資金提供動向にわずかな影響しか与えていません。

持続可能な開発課題は、金融包摂における資金提供者のかかわり方を再構築することです

2015年に採択されたSDGsは資金提供者が注視すべき点を変えました。つまり金融包摂それ自体を目標とすることから、より広範で包括的な開発成長を目指すべきであると変化したのです。資金提供者達は、金融包摂自体の結果と同様に、SDGsを達成するため分野横断的な相乗効果をもたらす金融包摂をこれまで以上に優先する立場をとるように期待されています。

この新しい枠組みは、焦点をあてる分野とその可視化にリスクをもたらしました。資金提供者の最大の関心事は、単に新規金融包摂プロジェクトを発掘するのではなく、資金提供を梃子により広範な開発目標達成に資する新規プロジェクトを発掘することになったのです。専門的な知見を要する金融包摂の政策実現、消費者保護、金融システム基盤構築は最優先事項でないかもしれません。というのもSDGと直接的に関連しないからです。

資金提供者にとって、SDG実現手段として、金融包摂ポートフォリオ全体を再構築し、内容を識別して

1 金融包摂に資する資金提供額推計は、クロスボーダー資金提供者の金融包摂へのコミットメントやマイクロファイナンス投資主体（MIV）を含む総合計です。MIVがクロスボーダー資金提供者から受け取る資金は重複を回避するために除外しました。詳しくは別冊「調査方法」を参照してください。

2 資金提供額推計は、10億ドル単位に四捨五入しています。2016年と2017年の推計コミットメントは、371.6億ドルと416.8億ドルでした。年度推移とその内訳は、資金提供者調査参加者の回答に基づいて計算。彼らは推計額の72%を占めており、総額300億ドルのコミットメントを報告しました。調査参加者名は「調査方法」を参照。

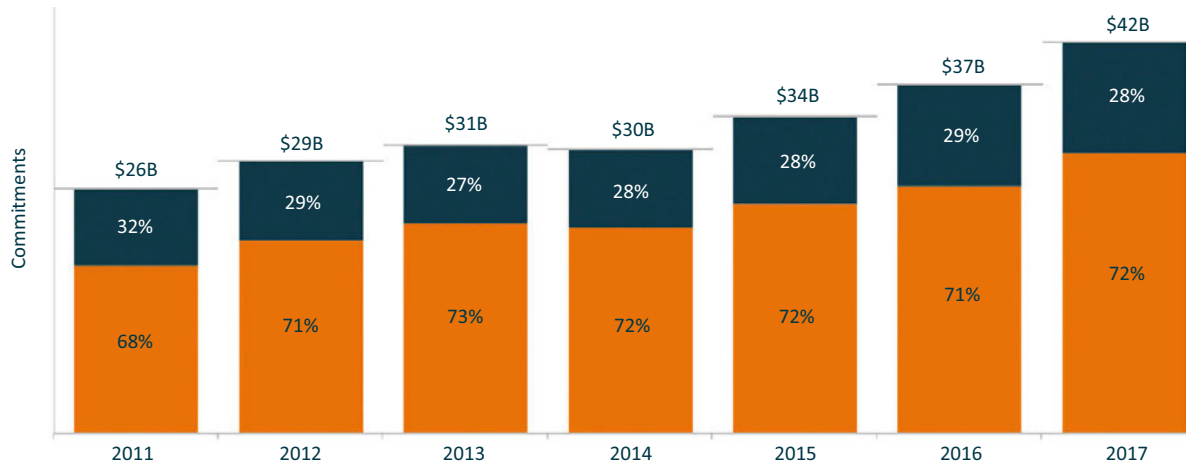
3 公的資金提供額には、開発金融機関、二国間及び多国間の開発援助機関のコミットメントが含まれる。

4 民間資金提供額には、財団、篤志家および投資家からのコミットメント、及び富裕層や他機関投資家のMIV投資額が含まれる。

5 銀行業務および各種金融サービスは「経済インフラ」と見なされます。

6 2015年のSymbiotics MIV Surveyで、2016年はMIVの成長が過去10年間で最も低いと予測（Symbiotics 2017）

図1. 金融包摂に資するクロスボーダー資金のトレンド推計(2011-2017) 単位:10億ドル



Source: CGAP Funder Survey 2011-2017, Trendable Set N = 42 Funders, Symbiotics MIV Survey 2011 - 2017

■ Private Funding ■ Public Funding

パフォーマンスを管理し、結果に対する説明責任をきちんと果すことは難しいことです。⁷

これらの課題とリスクにもかかわらず、金融包摂に対するコミットメントは今後3年間拡大し続け、開発ポートフォリオ全体の中でより高いシェアを占めると資金提供者は予想しています。

FSPへの資金提供は既に確立されたセグメントとなり、資金提供者は金融包摂に必要なエコシステムを創造するDFSを優先

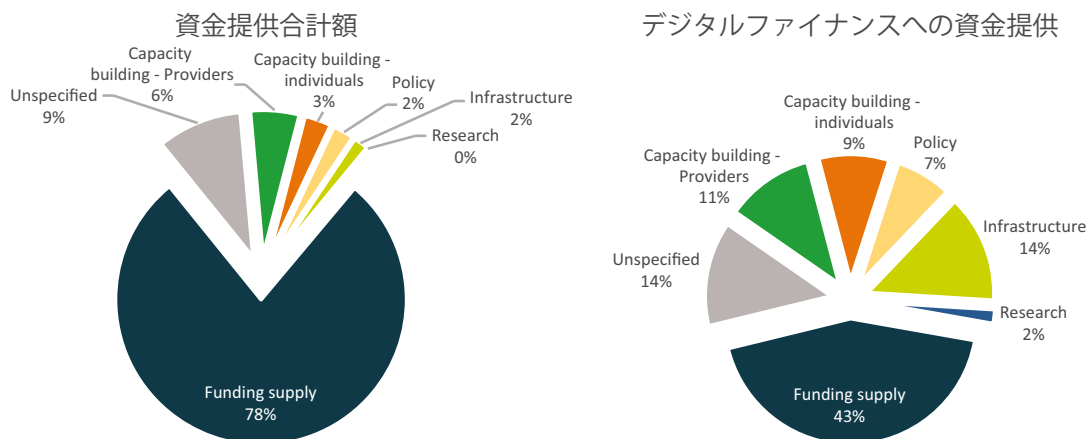
2017年の資金提供者調査は、DFIが引き続き最大の資金提供者であることを示しています。彼らの（直

接的または間接的）デットによる資金提供が、FSPの融資ポートフォリオに資金を供給しています。特にマイクロ・中小企業金融または農村および農業などの分野で顕著です。というのもDFIがこれまで伝統的に注目してきた分野だからです。

しかし、資金提供者にとってDFSは比較的新しい注力分野で、資金調達の今後の展望は大きく異なります（図2）。DFSのエコシステムはまだ完全に開発されていません。資金提供者は基盤となる設備、政策、および能力開発に注目しています。

2017年のDFSへの資金提供全体（18億ドル）のうち約4分の1にあたる5億米ドルをこれらに費やしまし

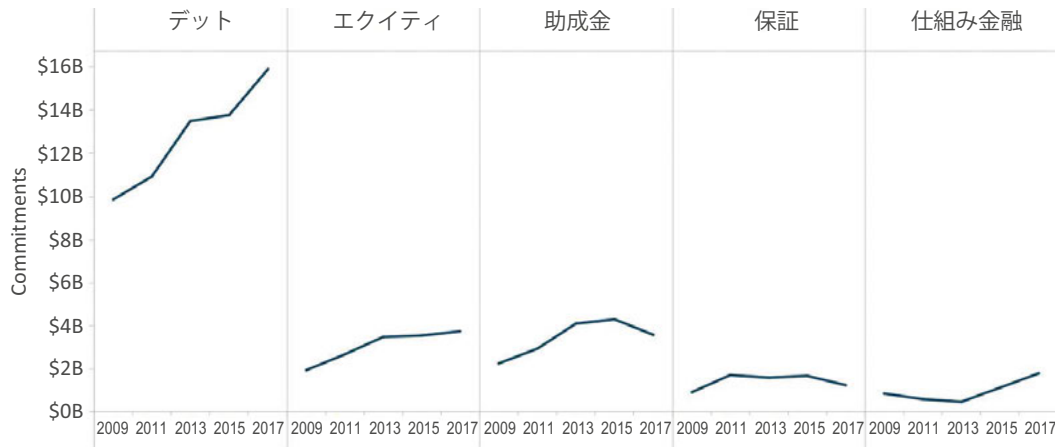
図2. 目的別資金提供コミットメント(2017)



Note: DFS is a subcomponent of the total funding for financial inclusion. A financial inclusion project may partially or fully target DFS.

⁷ 金融包摂ポートフォリオの全体像を把握するために、資金提供者は組織全体でプロジェクトを追跡する標準的な手法が必要です。金融単独型と金融および非金融プロジェクトを構成する両方を追跡する必要があります。CGAPの援助効果に関する研究(例: SmartAid)は、多くの資金提供者が適切なプロジェクト識別システムを持っていないことを示しています。SDGの枠組みの中で金融包摂が分野横断的な優先事項になりつつあるため、この課題はより顕著になるでしょう。

図3. 金融商品形態別資金提供コミットメント額(2009-2017) 単位:10億米ドル



Source: CGAP Funder Survey 2009-2017. Trendable Set N = 42 Funders

た。DFI、二国間、多国間や財団によるDFSへの資金提供はほぼ同額でした。

しかし彼らが介入する重点項目は夫々です。例えば、DFIが提供する資金の半分はFSPへ、財団は政策と能力開発への資金提供に努めています。

エクイティの活用が増加、助成金は10年ぶりに減少

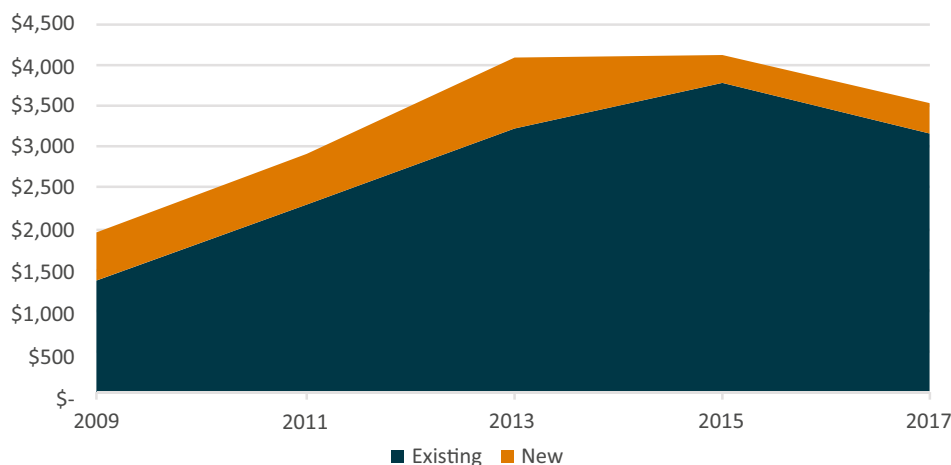
デットが全体の50%以上を占める主な手段である一方で、いくつかの注目すべき変化があります。(図3) 2017年にはエクイティが2番目に多く活用されました。全体の13%を占めます。DFIが主にこの成長を牽引しています。この資金はデットやエクイティでFSPに投融資するMIVに流れています。

助成金は10年ぶりの減少で、2017年には前年比9%純減しました。2013年からの新規助成承認の減少と同時に継続助成の終了が減少の理由です。(図4) 助成金全体の約半分を占める二国間助成の減少がその要因です

この減少はすべての地域で見られますが、ヨーロッパ、中央アジア、ラテンアメリカとカリブ海諸島での減少が顕著です。二国間資金提供者は、これらの地域は成熟してきたので、助成金に基づく介入に焦点を当てる必要がなくなったと感じるようになったかもしれません。

助成金の減少は何を反映しているかをよく理解するためには、さらに調査が必要です。二国間資金提供者の助成金減少は優先順位の変化を反映してなの

図4. 新規・継続助成金額の推移(2009-2017) 単位:百万米ドル



Source: CGAP Funder Survey 2009-2017, trendable set N=32 funders

2017年データ概観

CGAP資金提供者調査2017は次の疑問に対する回答を提供しています。

- 金融包摂を支援するクロスボーダー資金は総額いくらになりましたか？
- 資金提供者は何に資金を拠出していますか？ (テーマ、目的)
- 資金提供者は誰に資金を提供していますか？ (受益人)
- 資金提供者はどのように資金提供していますか？ (金融商品別資金提供形態)
- 資金提供者はどこに資金を提供していますか？ (地域別アロケーション)
- 次は何に資金提供しますか？ (今後3年間に焦点をあてる課題)。

か。より少額の助成で十分なのか。金融包摂システムの分野での助成金の必要性が低下したからなのか。その理由が何であれ、引続き助成金から恩恵を受けることが必要な分野もあり、資金提供者はどのような分野を見逃してはいけません。

参考文献

OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development). 2018. "Development Co-operation Report 2018: Joining Forces to Leave No One Behind." Paris: OECD. <https://doi.org/10.1787/dcr2018-en>

Symbiotics. 2017. "2017 Symbiotics MIV Survey, Market Data & Peer Group Analysis." 11th edition. Geneva: Symbiotics. <http://symbioticsgroup.com/wp-content/uploads/2017/09/Symbiotics-2017-MIV-Survey.pdf>

———. 2018. "2018 Symbiotics MIV Survey, Market Data & Peer Group Analysis." 12th edition. Geneva: Symbiotics. <http://symbioticsgroup.com/wp-content/uploads/2018/10/Symbiotics-2018-MIV-Survey.pdf>

Tomilova, Olga, and Edlira Dashi. 2017. "Key Trends in International Funding for Financial Inclusion." Brief. Washington, D.C.: CGAP, December. <http://www.cgap.org/research/publication/key-trendsinternational-funding-financial-inclusion-2016>

CGAPの全ての出版物は、CGAPのウェブサイト www.cgap.org でご覧になれます。

CGAP
1818 H Street, NW
MSN P3-300
Washington, DC 20433
USA

Tel: 202-473-9594
Fax: 202-522-3744

Email:
cgap@worldbank.org

© CGAP, 2019